

伝えることの大切さ

富岡市立北中学校

二年 萩原 奈々

「やっぱりいいや。どうせ言っても無駄に決まっている…。」これは、クラスで決め事をしていた時の私の心の声です。大多数の意見と私の意見は異なっていました。みんなから否定される不安や恐れから、黙ったままその時をやり過ぎました。

以前の私は、このように自分の言いたいことを抑え込んでしまうことが数多くありました。なぜなら、言いたいことを主張することによって、相手が自分のことをどう思うか、相手との関係が崩れてしまうのではないかと心配し、リスクを冒してまで自分の意見を伝えることに躊躇していたからです。その結果、自分の意見を言いたいと思うことは少なくなり、私の本音や感情はどこかに置き去りになっていました。

そんなある日、『私はマララ』という一冊の本に出会いました。「二人の子供、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン。それで世界を変えられます。」これは、イスラム過激派が支配していたパキスタン北部で、危険を顧みず、女の子が教育を受ける権利を訴え続けてきたマララ・ユスフザイの言葉です。

マララは、父親から、女の子にも、男の子と同様に様々な権利があると学び育ちました。そして、苦境でみんなが語ることが出来ない中、「私は、自分の権利や女の子の権利について話しているだけ！何も悪いことはしていない！」と正々堂々言葉を発し続けたのです。その結果、二〇一二年、マララはタリバンによって銃撃を受けてしまいました。奇跡的に一命を取り留めたマララは、暴力に屈することなく、今も尚、教育の重要性を世界に訴え、みんなに希望と勇気を与えています。マララのそのパワーの源は一体何なのでしょう。私は、マララのゆるぎない勇気と強さ、そして無限の可能性を信じる心だと思っています。私は、その本からマララの見事な生き様を学び、深く感銘を受けまし

た。そして、溢れ出す感情でいっぱいになり、目から沢山の涙がこぼれ落ちました。

言いたいことを主張しなかったことによって、後になって納得できなかったことや辛い立場に立ってしまったこと、なんである時言わなかったのだろうと後悔したこと、様々な場面が頭をよぎりました。そして、自分はマララと比べると、何とちっぽけな人間なのかと思ひ知らされました。しかし、同時に「絶対このままではいたくない！」とも思いました。相手の顔色を伺って波風をたてないようにし、自分の意見が少数ということで自信がなかった自分とは、今日ここで決別しよう。これからは自分の意見を伝えていこう。そうでなければ、私が私でなくなってしまう。心の奥底から魂の聲が聞こえ、そこには一歩前進した私の姿がありました。

そもそも、同じ環境で育ってきた人はいません。したがって、人それぞれの価値観、考え方に違いがあることは当然です。そのことを十分に理解した上で、他人がどう思ったか、どう思うかではなく、まずは自分

自身がどう思っているか、それを伝えることが大切なのです。そして、様々な観点から意見交換を行い、最終的に納得する方向へ結論を出すことが大変重要と考えます。

今回、自分の意見を発信していくことがいかに大切かを学びました。黙っているだけでは何も変わらない、何も始まらないのです。

あの日以来、私は自分の思いを大切にしています。時には、自分の意見を主張することに対して、正直怖いと思うことや戸惑うこともあります。しかし、強く勇ましく、マララのようにあらゆる逆境に立ち向かい、前進する日々を生きていきたいと心から願う私です。